

校友会報

第87号

令和6年3月1日

INDEX

●ごあいさつ	2
●令和5年度通常総会について	3
●第40回「母校を訪ねる会」を開催	3
●母校を訪ねる会の様子	4
●支部活動報告	12
●谷川正己先生を偲ぶ	15
●体育会少林寺拳法部第九代同期会	16
●学生の活躍	16
●校友会について	17
●校友会NEWS	17

●日本大学工学部が推進する産学官連携活動(7)	18
●校友レポート	20
●若葉マーク	22
●あかしや新聞	22
●下宿は永遠なり	23
●令和6年度通常総会通知	24
●第41回母校を訪ねる会	24



表紙のQRコードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページ(校友会について・ニュース・校友会便り・校友会報等)をご覧いただけます。

ごあいさつ



校友会会長 城座 隆夫

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は校友会活動に対しましてご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

また今年1月1日に起きました能登半島地震により被災された方々にお見舞い申し上げますと共に亡くなられた方へ哀悼の誠を捧げます。より早い復興をお祈り申し上げます。

昨年4月に会長を拝命し、早や1年が経とうとしております。

昨年10月28日(土)・29日(日)の2日間行われた北桜祭がコロナ禍以降、例年に戻った開催となり、芸能祭・模擬店・展示ほか沢山の企画があり、天候にも恵まれて盛大に行われましたことは実行委員の頑張りだけではなく教職員や在校生、地域の皆様方のご協力があったものと感じております。

29日(日)に卒業10年ごとの校友を招いて行われた「母校を訪ねる会」におきましては約150名の参加を頂き、前回好評だった「まぐろの解体ショー」で盛り上がりの中、久しぶりに再会した校友との交流が行われ、お茶の接待・キャンパスツアーも復活して、盛会に終わったことは関係各位に対しまして感謝申し上げます次第です。

参加者の5割ほどが卒業50年の校友であったこともあり、卒業60年でも招待してほしいとの要望が出ていました。学部と前向きに検討したいと思っております。

校友会は校友の再会と新しい出会いの場を企画し、学生への支援をすることが基本と考え、校友の絆をより深く強くすることにより、母校への寄与も充実できると思っております。

ご存知の通り少子化の厳しい状況の中、学部の発展は優秀な学生の確保です。

各地域支部活動の支援をはじめ、高校教諭の校友との連携で入学志願者の確保、卒業生の就職先の斡旋などにより学生の入口から出口までをサポートしております。

昨今、日大生不祥事の対応で世間の大学に対するイメージが悪くなっていることも感じますが、日本大学が素晴らしい学校であることは校友の皆様がいちばんよくお解りになっていると思います。我々ができることは母校の誇りを以って社会で活躍することではないかと思っております。

最後に校友の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、今後も工学部校友会に対して変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



工学部長 根本 修克

令和6年の早春を迎え、校友の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

まずは、本年、元日に能登半島地震が発生し、石川県におきましては多くの方々はその犠牲となり、その周辺地域におきましても被災した多くの方々避難生活を余儀なくされているのみでなく、生業を含めました生活基盤が危ぶまれている状況がございます。犠牲となられた方々には心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々には心よりのお見舞いを申し上げます。工学部におきましても、在学生ならびに在学生の保護者の皆様の被災状況を把握しながら、その対応につきまして、法人本部とともに検討して参ります。

一方、本学に目を向けますと、令和3年の本学における不祥事に続き、令和5年には、アメリカンフットボール部員の薬物使用による逮捕・起訴に端を発した事案により、法人本部執行部のガバナンス不全が令和3年の不祥事の際と同様に文部科学省から改めて指摘されました。法人本部執行部における混乱によりまして、日本大学工学部校友会の皆様にも多大なご心配とご迷惑をおかけいたしておりますことに改めまして深くお詫び申し上げます。

しかしながら、教育・研究現場である工学部におきましては、教職員が一丸となり、従来通り、一人一人の学生に真摯かつ誠実に向き合いながら、学生の教育・研究および生活のサポートにひたむきにあたっておりますので、校友の皆様には、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

さて、工学部では、20年以上にわたり、「ロハス工学」を基盤とする研究活動を行って参りました。令和2年に立ち上げたロハス工学センターにおきまして、教職員のみならず学生の意見も取り入れながら議論を重ね、「ロハス工学」を体感できる新しい研究施設を建造することができました。今後も、キャンパス内の「ロハスの森」と命名した一画の整備を進めていく予定であり、ロハス工学センターを基盤とした研究活動をさらに充実させ、工学部の研究基盤となる「ロハス工学」に関わる研究成果を広く社会に発信して参ります。

一方、令和5年10月には、令和4年に引き続き、北桜祭および母校を訪ねる会をコロナ禍以前と変わらぬ形式で開催いたしました。今後も、活発な人的交流を行える機会を設けて参る所存でございますので、工学部校友会の皆様にもご協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、自然災害やコロナ禍などの度重なる苦難を工学部が乗り越えてくることができましたのも、日本大学本部校友会ならびに工学部校友会および他学部校友会、校友会各支部を通しての校友の皆様からの多大なるご支援の賜と衷心より感謝申し上げます。校友の皆様のご健勝とご活躍ならびに工学部校友会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

令和5年度第65回通常総会

令和5年4月22日(土)、工学部62号館3階大講堂にて令和5年度通常総会を開催しました。

議事に先立ち議長に永田正一郎氏(土21)、議事録署名人に松崎信一氏(建29)、松本力氏(土36)、書記に小野信太郎氏(土29)、園田駿希氏(建69)がそれぞれ選出されました。田村賢一総務委員長(機30)、城座隆夫財務委員長(機21)により行われた報告事項・承認事項ならびに議案事項は賛成多数で可決されました。

また、本年は役員改選が行われ、2期6年に亘り会長を務められた中野伍朗氏(化16)が退任することになりました。新会長に城座隆夫氏(機21)、新幹事長に永田直史氏(機29)が承認され、校友会の新体制のスタートとなりました。

総会終了後、4年振りとなる懇親会が開催され、日本大学関係者を始めとした来賓の方々にご臨席いただきました。催し物に応援団OBによる演舞披露が行われ、大変盛大な会となりました。

次回は令和6年4月20日(土)に開催されます。懇親会では、校友同士交流を深めることの他、仕事面などでの情報交換が出来る一面もあります。校友の皆様の多数のご参加をお待ちしております。



第40回「母校を訪ねる会」を開催



令和5年10月29日(日)、第40回母校を訪ねる会が開催されました。本年度より通常開催となり「21回」「31回」「41回」「51回」「61回」卒業の皆様をご招待しました。そのほかに「志田下宿OB会」や招待学年外の校友の皆様も複数参加され、総勢144名のご出席をいただきました。

懇親会では、来場者各自にお弁当をご用意しつつ、温かいお料理も楽しんでいただくオープンキッチンを設置しました。また、昨年度同様「鮪の解体ショー」を開催しました。来場者参加型の鮪の重量当てクイズなどで会場は大いに盛り上がりました。

校友の皆様も久方ぶりの母校来校、何十年來の旧友、恩師との再会をご満喫いただけたようです。同時にそういった場を設けることができ、当会としても大変喜ばしい限りです。

今秋も開催致します。対象学年の皆様は勿論のこと対象学年外の方でもご参加いただけます。校友会役員は全学科のメンバーが揃っておりますので、お一人でご参加の際も対応致します。奮ってのご参加、お待ち申し上げます。



母校を訪ねる会



第21回卒 集合写真



第31回卒 集合写真

母校を訪ねる会



第41・51・61回卒・志田下宿・非該当年卒 集合写真

應 援 團

「母校を訪ねる会」に参加して

應援團OB 益山 兆 (建築69回卒)

私はこの度、應援團 OBとして参加し、校歌と応援歌第一を披露させていただきました。今回のように「対面・マスク無し」にて演武を行いましたのは、水害やコロナ禍による北桜祭の中止も含め、実に5年ぶりであります。再び皆様と校歌を歌える日が来ましたこと、大変喜ばしく思います。しかしながら、その間に應援團は団員数が0名となり、毎年母校を訪ねる会にて現役団員が行っていた校歌や応援歌を、今回は我々應援團 OBが行う形となりました。やはり、現役がないというのは寂しく、どこか物足りなくも感じます。この古き良き應援團という伝統は、次の世代に継承されてこそ、価値があるものだと思うからです。現在も應援團は休団中ですが、新たに現役学生が入団し、「日大の應援團」が復活することを心より願っております。

最後になりますが、母校を訪ねる会を開催していただきました校友会の皆様、大学関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



校 友 茶 会

馬場 浩身 (電気35回卒)

この度の北桜祭での校友茶会は、じつに3年ぶりの開催となりました。コロナ感染症が5類に移行になったとは言え、やはり懸念される材料は多く、また実施母体となっていた茶道部も、この間に活動休止状態となってしまいました。実行委員会では、開催するに当たっての必要事項をどの様にして満たしていくのか考えるところから始まり、意見を出し合い検討し、手探りながらも最善の形を整えてなんとか当日を迎えることができました。

以前の様に学生のお点前でお茶を差し上げることはできませんでしたが、幸いにも有志学生諸君がお菓子のお運びをしてくれました。卒業生をもてなす行事に在校生が参加する事は、本来の茶会の開催目的の一つでありましたので、本当にありがたかったです。おかげさまで、卒業生の方々からはたくさんお声掛けと、御礼のお言葉を頂戴いたしました。

今回の実施にご協力頂いた皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

キャンパス散歩ツアー報告

校友会キャンパス散歩ツアーのガイドを体験して

工学部校友会では、校友の皆様が大学に対する理解を深めていただくため、大学・教職員の方々・学生にもご協力をいただき、5年ぶりで母校を訪ねる会該当者向けに、キャンパス散歩ツアーを10月28日(土)・29日(日)の2回実施しました。今回も校友会役員ガイドとともに学生(研究室)ガイド3名の方にお手伝いしていただき、当日の感想をお聞きました。ありがとうございました。

■おもな見どころ／土木工学科環境生態工学研究室(ロハスのトイレ)、建築学科鉄筋コンクリート(RC)構造・材料研究室、電気電子工学科パワーエレクトロニクス研究室、生命応用化学科環境工学研究室、ロハス工学センター、校史資料室、70号館展望台など



情報工学科
情報サービスシステム研究室
鬼川 凌

私は、今回キャンパス散歩ツアーを通してOB・OGの方々との触れ合いから日本大学工学部の歴史について触れることができました。タイムキーパーとして様々な場所を回り、校史資料室では過去の校

内について「ここにはこんな建物があった」「この建物はまだ残っている」という話をしたり、ロハスの建物解体後の新しい建物について知ったりするなど工学部の過去から未来についての移り変わりを知ることができました。また、普段知ることのない他学科の研究も目にする事ができ、興味や関心を深めることができました。今回のツアーは、日大工学部について多くのことを知ることができた有意義な時間でした。



情報工学科4年
三瓶 大介

私はタイムキーパーとして今回のキャンパス散歩ツアーに参加し、他学科の研究室や校史資料室など、普段立ち寄ることのなかった場所を知る良い機会となりました。特に、校史資料室では、昔の記事やキャ

ンパスの模型を見ながらOB・OGの方々と話していると、興味深い思い出話が次々と出てきて、実在する歴史であることを実感し、とても新鮮な感覚でした。また、新しいロハスの家の仕組みなどは今回初めて知り、改めてロハス工学の試みは現代において革新的だと再認識し、今後の進展が楽しみになりました。今回のツアーを通して得た経験は、普段の学生生活では得られなかったであろうものばかりで、とても有意義な時間でした。



電気電子工学科2年
菅原 由騎

私が日本大学工学部のキャンパス散歩ツアーガイドを務めた体験は、非常に刺激的でした。電気電子工学科の学生として、他学科の建築学科のパリーク先生の研究室を訪れるのは初めてで、そこでコンクリートに生きるバクテリアの存在を知り、新たな学

びを得ました。この発見は、異分野間の交流の重要性を教えてくださいました。

また、同行させていただいた参加OB・OGの方々は建築学科と土木工学科出身で、同じテーマに異なる視点からの議論が興味深かったです。ツアーの最終部では、工学部の新しいロハスの家や校史資料室を訪れ、OB・OGと工学部の歴史について語り合いました。この交流は、学生とOB・OGの架け橋となり、多角的な視野を持つことの重要性を再確認させてくれました。

母校を訪ねる会に参加して



母校を訪ねる会・
キャンパス散歩ツアーに参加して
山口 良次 (土木31回卒)

新型コロナウイルスのため延期となっていた「第40回母校を訪ねる会」に参加しました。「懇親会」では、再会した参加者の間で様々な話題が飛び交い、会場の空間が、思い出の「あの頃の日大工学部」へとタイムスリップしたようでした。「校友会キャンパス散歩ツアー」では、「北桜祭」期間中でしたが、校友会広報部の方と学部生に案内をしていただき校内を見て回りました。

新しく綺麗に大きくなった施設を見て、皆驚きの声をあげたり、各研究室の展示や新しい研究の説明を受けて感心したり、また、研究室の先生方との名刺交換等をする姿も見られました。「鉄筋コンクリート構造・材料研究室」では、「バクテリアがコンクリートのひび割れを埋める」話を説明していただき、参加者から「バクテリアの限界は何年か」、「そのバクテリアは特殊なものか、どうやって見つけたのか」等、現在、コンクリートに関連した職種に就かれている方々が多かったのか質問が次々と出されました。次に「ロハスの家群跡地再生プロジェクト」を見学させていただき、屋根に植物が生え、建物脇には魚が泳ぐ池を準備中とのこと、環境を考え木材を使った斬新で独創的なデザインに興味を引かれました。次に、「自立型『ロハスのトイレ』」と言って、上下水道等のインフラが未整備の場所や震災等でトイレが使えないとき、電気や水道に頼らない自立したトイレを紹介され、実際にトイレを使って、説明を聞きました。排泄物をロールで巻き取り、ロールがなくなれば交換する仕組みで、「バイオと違い分解が速い」のが利点とのことでした。参加者からは「(自分たちの)建設現場の仮設トイレに使いたい」等の声がありました。

今回、卒業後40年が経ち、元気な旧友と再会し、昔の懐かしい思い出に浸ることができました。帰り際に、「10年後また元気に会う」ことを誓い合った旧友に思いを馳せながら10年後を楽しみにしています。今回、「第40回母校を訪ねる会」を通して、素晴らしい一時を過ごすことができました。ありがとうございました。



卒業50年後に母校を訪ねる会に出席して

梶井 照仁・佐知子 (旧姓渡辺) (建築21回卒)

1973年(昭和48年)に、建築学科(21回生)を卒業、東京の構造専門の事務所に就職した。そして6年後に独立、



新潟で株式会社建構造研究所(構造専門)を立ち上げた。大学時代を振り返ってみると、入学した頃は学生運動(大学紛争)の終わりで当時の本館は黒くすすけていたことを思い出す。卒論は構造力学をコンピューターで解析する研究(日立ハイタック10の紙テープで解析、汎用コンピューターは無かった時代)だったが、友人が人間工学の研究をしていたことから、興味津々その研究室に足を運んでいた。その時に知り合った同級生が3年後に妻となる。子供は二人、長男は僧侶・写真家、次男は外資系建設コンサルタント会社の技術開発部長である。

ところで、最初に母校を訪ねる会に出席したのは卒業して20年後(43歳)である。当時の記念写真から、建築学科は53名の出席者(その内女性5名)であった。当時イ組とロ組に分かれており知らない人も多い。今回は卒業して50年と言う節目の年であることから、10月29日の母校を訪ねる会に出席した。出席者は21名(その内女性1名)で、少々寂しかったが大学時代を思い出し、友人と話をしながらの楽しいひと時を過ごした。懇親会は工学部長・校友会会長の挨拶、アトラクションはマグロの解体と重さ当てクイズ、出席者挨拶・校歌斉唱など、美味しいお弁当を食べながらのひと時であった。

前日の10月28日にはキャンパス散歩ツアーに参加した。校史資料室・ロハス工学センター(令和5年竣工木造平屋建て)及び70号館展望台(地下1階地上9階建て)を視察した。卒業当時より施設が多く綺麗になっており校内の変化を感じた。そして鉄筋コンクリート構造・材料研究室(バクテリア自己補修コンクリート)及び環境化学工学研究室(二酸化炭素の回収・貯蔵)について、先生方から説明を聞き最新の研究に触れた。その研究が環境問題の成果として社会に還元できることを願っている。

最後に、1990年(平成2年)から6年間、非常勤講師として鉄筋コンクリート構造の構造設計の講義を受け持った。学生と設計の取り組み、考え方などを語り合ったことを思い出す。昨今少子化で工学部を希望する学生も減っていると聞く。都会と違い地方の良さがある。工学部の発展を願う次第である。

追)今年、長男(梶井照陰で検索できる)が「お寺のハナちゃん」を出版した。全国で写真展示の巡回をしており好評である。「僧侶の息子・柴犬のハナそして祖母」との限界集落での暮らしを仏教用語交えてまとめた絵本のような本である。ぜひ一度手に取ってしみじみと感じ取って頂けたら幸いです。(佐知子)

母校を訪ねる会に参加して



母校を訪ねる会に参加して

中道 悟 (建築21回卒)

今回卒業 50 年母校を訪ねる会に招待していただきありがとうございます。

準備して頂いた工学部教職員、校友会の役員の皆様にお礼申し上げます。

我々建築学科の 21 回卒業生は 350 名程度でしたが、今回参加された方は、21 名で少し寂しい思いがしましたが、時間の経過を実感しました。

前日に若井正一先生にもご出席いただいて、ビューホテルアネックスで同級生 12 名が集まり懇親会が開催され、約 2 時間学生時代にタイムスリップし楽しい時間をすごしました。

その時若井先生から「創建」建築学科の機関紙（創刊から現在まで小冊子にまとめたもの）を見せていただきました。創刊が我々が入学（昭和 48 年 5 月）の 2 年前の 4 月 11 日でしたが、建築学科の発展を知り感激しました。

我々の入試は学生運動の関係で両国の日大講堂で窓ガラスが割れベニヤ板で覆われてコートを着て受け、入学式も 5 月の中頃でした。工学部の本館も窓ガラスがなくベニヤ板で覆われていました。正直言って大変な所に来たなあと思いましたが、講義の開始前にオリエンテーション合宿で 1 泊 2 日で猪苗代湖の青年の家でおこなっていただきました。工学部の学生は地元福島の人が少なくほとんどが寮、下宿であり、このオリエンテーション合宿でクラスもまとめ、友人もでき、今思えば楽しい学生生活を送れるスタートをきれたことに感謝しております。キャンパスも 1 年ぐらいで復旧工事が行われ、また学園紛争直後で教職員の先生方は、自然豊かな「かつこう」の鳴き声が聞こえるキャンパスで親身になって学生に接して指導していただいたことが、建築技術者、社会人としての基礎であったと実感しております。今後も良き人材を社会に送り出していただくよう工学部の発展をお祈り申し上げます。最後に校友会の役員の皆様にお願ひです。人生 100 年とも言われる昨今、ぜひ次回卒業 60 年の母校を訪ねる会にご招待いただけることを祈っております。よろしくお願ひ申し上げます。

50年目の同級会

高原 一啓 (機械21回卒)

コロナ禍で長く活動の制限を受け、また加齢による健康の制約などにより、工学部校友会の「母校を訪ねる会」が今年 50 年目で最後の行事であることは分かっていたが、前夜祭となる同級会の開催には何故か及び腰でありました。

このような雰囲気では準備する期間も考慮せずにいたら、お盆あけの頃には校友会より「母校を訪ねる会」の案内状が届いて、級友からも「今回は同級会をやらないのか」から始まり、最後は「是非やるようにしてほしい」までにヒートアップしていきました。流石にここまで盛り上がりやらないければという使命感にかられ、開催を決めました。その後のスケジュールは横並びの級友たちに電話で連絡し、電話が通じない級友には手紙を送りました。前回、平成 25 年の出席者を母体として口コミで知らせ 9 月 30 日の締め切りまでに 24 名の参加が決まりました。

同級会会場は、前日も利用した市内のビューホテルのレストラン唐紅花（カラクレナイ）、来賓として佐藤光正先生、今村仙治先生が出席され 10 年ぶりのご対面となりました。

会の進行は、来賓挨拶、次に乾杯を今年度から校友会会長になった同級生の城座隆夫君の発声で宴開始、その後、歓談になり級友の近況報告などがあり、それぞれに個性のある挨拶をしていました。特に全員 70 歳を超えているせいか健康に関する話も多々あり、興味深かったです。

終宴近くになり「母校を訪ねる会」の参集は今回で終わりになりますが、またこのような会合をやらないかとの提案があり、「皆さんの希望があれば 10 年後と言わず何か名目を付けて集まることは可能と思う」との結論に至りました。

尚、参加した級友は南から鹿児島、宮崎、福岡、四国徳島、広島、愛知名古屋、長野、静岡、新潟、関東地方、宮城と全国からの参集でした。

※佐藤光正先生即興の句（先生の挨拶の情景を読んだ句）
壇上のわが声聞きし 益荒男は 卒寿の庭で 友遊語る
最後に校友会よりご祝儀として金一封頂きまして、この場をお借りしてお礼申し上げます。



卒業して半世紀 母校を訪ねる会に参加して

岩澤 忠恭 (機械21回卒)

10 月 28 日 5 時 30 分起床、6 時に七里ガ浜の家を出発。圏央道を抜け東北道宇都宮寄り激しい雷雨ノイズ混じりのニュース、停電区域を放送している。鬼怒川を渡る頃には、雨も上がり下流に新幹線を見ながら滑空場方面を見る。学生が操縦を教えている加藤教官（宇大 OB）は、やはりこの天気では、グライダーを飛ばしていない。10 時 40 分、工学部学生駐車場に着く。滑空研究会主将森田君に格納庫の解錠をメールで依頼していたが行違いで解錠されていない。メール返信まで近くの食堂でタンメンを食べながら返信を待つ。11 時に格納庫を解錠しているとのメー

母校を訪ねる会に参加して



生命応用化学科：児玉先生の研究室にてメモする私(左端)

ルが届く。食堂にいることを伝え、食堂に来てもらい青椒肉絲と餃子をご馳走する。御飯大盛3杯を軽くたいらげた。俺も、あの頃は、痩せの大食いでは停止が掛からないと5杯はタイラゲタことを思い出す。食後、格納庫に案内してもらい、ホコリまみれのグライダーを見て安堵とがっかりの複雑な気持ちになった。安堵は、水害の影響をグライダーが受けていなかったこと。がっかりは、コロナの影響で部員が4人しかいないこと・グライダーがホコリを被っていたこと・耐空検査(車で言う車検)を受けていないので受けてからでないと飛ばせないこと・グライダー運搬車(トラック)がなくなっていたこと。(自分たちでグライダーを滑空場まで運べない)滑走路(鬼怒川滑空場)に格納庫があればとつくづく思う。来年の新人加入の時、機体を組むのであれば組み立て要員としてOBが応援に来ることを約束した。13時30分、校内見学会に参加。(ロハス工学センター・校史資料室・70号館展望台・児玉大輔先生研究室・江口卓弥先生研究室)校内を案内してもらい研究室を2件見たあと70号館展望台に登る。滑空研究会の格納庫とその後ろに金屋・徳定の田圃が広がり空には安達太良山にレンズ雲が掛かっている。大学3年当時この田圃でグライダーを飛ばしたことを思い出す。2地区の区長さんに掛け合い3枚の田圃(グライダー離発着帯)と約1キロメートルの農道及び田圃を借りて東西に伸びる滑走路を造りそこから離陸して気流調査(奥羽山脈に発生するウェイブ：山岳波)が有ることをグライダーで確認、結果長沢さんが見事ウェイブに乗り海岸まで飛び国際滑空記章の科目50kmを達成。当時は、工学部機械工学科に、橋本先生(教官資格保有)がいて、国際滑空記章等の手続きや飛ぶための教育アドバイスを頂いていたので学生の活動がスムーズに行っていた。その点、今の学生は大変だと思う。コロナ禍で活動ができない中、4名ではあるがつぶれずにいた事を感謝、感謝。理想を言えば学校に滑走路が有り、格納庫から組み立てられた機体を直接滑走路に運べる環境があれば、もっとグライダーを知ってもらえると思う。また部員も減らずに活動していたと思う。現状は、宇都宮大学グライダー部が鬼怒川で飛んでいる時、参加してなんとか飛んでいる。情けない限りである。日大工学部の機体で、学生が飛ぶ環境を考えると、鬼怒川滑空場(宇大が数年契約で国交省より借りている鬼怒川河川敷)を使わせもらい、また宇大が駐機場として使用している場所にコンテナを設置させてもらい格納庫代わりに使用すればグライダーの移動がなくなり(運搬のリスクがなくなる)学生の活動が、

しやすくなると思ったりしている。学生頑張れ！OBとしても、協力できる場所は、協力したく考える今日この頃です。

来たれ「母校を訪ねる会」へ！

田中 清文 (機械41回卒)

今回、初めて「母校を訪ねる会」に参加してみようと思うきっかけになったのは、昨年同じくこの投稿をされた体育会ボート部の先輩から後輩への訪ねる会参加推奨メッセージと、同じくその投稿を読んだ同期からの誘いからである。私はクラスにそれ程多くの友達が居なかったので今迄参加には興味を持っていませんでしたが、その私でさえ有意義な時間を過ごす事が出来ました。

訪ねる会の前日に久しぶりの郡山に入り、先ずは駅前の変貌ぶりに驚きました。当時の面影を重ねながら街の風景を楽しもうと駅前から開成山公園付近まで散策してみると、大きなショッピングモールが出来ていたり、バイト先が無くなっていたり街並みも大きく変わっていましたが、昔好物だった懐かしの味わいに再会出来たりと切なくもあり感動する事も出来、その夜は数人の同期と久しぶりに乾杯もして盛り上がり、前日にして郡山を堪能したのでした。

当日は受付時間より少し早めに大学の正門を潜り、北桜祭の準備で忙しい現役生に心でエールを送り、またその昔は私も部活の皆で焼きそばを作ったり楽しんだ場面を懐かしみながら、真っ先に足はボート部の部室へと、消えかけていた記憶を頼りに向かっていました。今は廃部となったボート部ですが、幸いにも部室は残っており、30年前の記憶が見事によみがえってきました。また、新しい立派な校舎と隣り合わせに見覚えのある校舎、変わらぬ銀杏並木の風景に確かにここの学生であったと再認識させられました。私は入学当初からアパート暮らしでしたので、初対面の世代の違う寮生同士が寮生活の話で花を咲かせている姿を見て、共有出来る思い出がある事を羨ましく感じました。懇親会では、座った隣がたまたま機械科の先輩だった為、私が機械保全を専門に仕事をしており、そのアドバイスを頂けたりと思いがけない機会にも恵まれました。

母校を訪ねる会、遠方やタイミングが合わなく参加出来なかった方が大半だと思います。次回は10年後で何と60代での開催となります。同期の皆さん、2033年は是非参加してその先の人生の活力を得ようではありませんか。そして後輩の皆、強く参加を推奨します。最後に今回このような機会を作って下さいました大学関係者の皆様にお礼を申し上げます。



母校を訪ねる会に参加して

母校（素敵な出逢いに「感謝」）

鈴木 政昭（電気41回卒）

第41回卒枠「母校を訪ねる会」に参加し近況兼ねて。同卒では電気、土木、機械は各1名、建築8名、化学4名のみで参加者は少数でした。同回卒土木工学科の水口佳三氏を誘い時間共有でき幸いでした。



私は、1993年に(株)日立メディコに入社し品質保証部（千葉県柏市）に配属後、核磁気共鳴画像診断装置（通称MRI装置）「AIRIS- II」認定試験担当に専任され、大学での4年間毎週（実験⇒実験報告書）の応用実践でした。

(https://www.jira-net.or.jp/vm/data/mri/1996_01.pdf?shem=ssusxt)

(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjrt/56/6/56_KJ00001356954/_pdf/-char/ja)

その後、吸収合併分社が頻繁に、日立メディコ⇒日立製作所⇒(株)日立ヘルスケアシステムズ⇒(株)富士フイルムヘルスケアシステムズ(株)（富士フイルム西麻布本社ビル内）薬事管理部に勤務し、国内全事業所の業許可申請を動物用医療機器修理業（農林水産省）及び古物商（警視庁東京湾岸警察署）に届出等の行政対応を一括担当しています。

親友の水口氏とは、体育科金田先生の「ゴルフゼミ（全学科全学年対象）」に参加で出逢い、昨年も万座やアルツ磐梯へと一緒にスキーに行く程の仲です。二人は前日郡山入りし、水口氏の学友郡山在住の2名（森合竜司氏、村田光弘氏）と合流し、静かな郡山駅周辺のハロウィンの夜、3軒はしご酒を満喫。村田氏が予約の料亭で美酒と料理で会話も弾み、空白の30年などありませんでした。翌日は電気工学科卒研でお世話になった宍戸敏雄教授のご自宅に水口氏も一緒に訪問し、台風による阿武隈川氾濫で大学付近の様子やご夫婦の安否確認もでき安堵しました。敢えて手ぶらで訪問「今でも何でも呑むよ」とご健康なことを確認し北桜祭の帰り、お酒と「ままだおる」をお届けしました。

2年程所属した「モダンジャズ研究会」存続も嬉しかったです。趣味は、自宅エレクトーンでYouTubeの動画に合わせJazzなど、休日前の会社帰り秋葉原ドバシカメラ4Fの電子ピアノ売り場や目黒駅周辺に生演奏で歌え、ドラムやギター、エレクトーン等楽器演奏できるピアノバー（Cozy piano lounge）に立ち寄り弾いています。

改めて、在学4年間、全ての方々との出逢いに感謝申し上げます。卒研で宍戸教授から紹介を受けて、半田詔一先生（当時寿泉堂総合病院 整形外科部長、現在、半田整形外科 理事長）にご指導を受けて以来、現在も毎年年賀状をいただき30年前の記憶が褪せないでいます。その他、機械工学科大学院生と流体力学の勉強会に参加させていただいたこと、両親と仙台の七夕祭りや松島へ観光の際、級友のご実家に駐車のご配慮いただいたこと、予備校時代の先輩の居るJazz研でお世話になったこと、級友として友達と

なっていたいた方々、皆様のご健康であることを祈っています。

校友会事務局へ一報を入れて毎年の参加も歓迎とのことを利用して同窓会も良いかもしれませんね。

最後に、卒業後二回目の執筆機会と私の両親、家族に感謝しています。

自分の紹介と『母校を訪ねる会』の感想

笠井 麻子（物化61回卒）

61回物質化学工学科卒業の笠井麻子です。

今、派遣社員のエンジニアを勤めていますが、派遣切りが多くてうまくいかない日々がありました。派遣会社と一緒に次の仕事も探していますが、東北地方や関東、関西などを志望してどの仕事に向いているか悩んでいます。

そんな私が最近ハマっていることは『星のカービィ スカパリー』『ドラゴンクエスト10 オフライン版』です。カービィは初めてやりましたが、昔のもの比べると3Dであるためリアリティさが強調されています。主人公カービィのパートナーであるエフィリンが大好きです。ドラクエは他の作品でもやった事はありませんでしたが、10番目はオンラインで経済的な事情でやった事はありませんでした。しかし、オフライン版で初めてやった時には様々な要素がたくさんありますし、オンライン版の各町・国の重要人物が仲間として戦ってくれるなど楽しいことが盛り沢山です。

さて、先日の『母校を訪ねる会』はありがとうございました。

久しぶり郡山にきた時は懐かしいと感じられました。

私の同期では人数が少なかったため、私のことを知っている生徒や先生方がいるかどうか不安でした。ちょうどその日は北桜祭であったため、70号館の展示物を開催時間までじっくり見に行きました。物理、数学、体育（ゴルフ）の展示物を楽しみました。数学では簡単な計算問題をはじめ、難しい虫食い計算、絵柄から人を探すものの問題を解いていました。計算問題や虫食い問題はよかったです。絵柄の問題は難し過ぎてギブアップしてしまいました。

『母校を訪ねる会』ではマグロの解体ショーや色々な食事を堪能したり、出席した同期や違う学科の卒業生と話が出来てよかったです。

『母校を訪ねる会』が終わった後も70号館の他の展示物を見物しました。生命応用化学科の展示物では学生さんから紹介された化学実験を体験して色々な化学の原理を改めて勉強することができました。また、様々な模擬店を見たり、キッチンカーのお土産も買って来たりで母校で楽しい時間を過ごすことができました。

次の校友会も楽しみにしています。



母校を訪ねる会アンケート

第40回母校を訪ねる会 参加者アンケート集計結果

昨年10月29日に開催されました、第40回母校を訪ねる会に参加の144名の方にアンケートをお願いしましたところ、32名の方にご回答をいただきましたので、報告させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。※母校を訪ねる会は該当年でなくても参加可能です。お一人での参加にも校友会メンバーが対応します。

	質 問	回 答
1	性別	男性(31) 無回答(1)
2	年代	70代(20) 60代(7) 50代(4) 40代(1)
3	該当年ですか	該当年(30) 非該当年(2)
4	都道府県	宮城(3)・福島(4)・茨城(1)・千葉(3)・埼玉(3)・東京(3)・神奈川(2)・静岡(2)・新潟(1)・長野(1)・富山(1)・愛知(4)・徳島(1)・福岡(1)・大分(2)
5	今回の母校を訪ねる会の開催を何で知りましたか	校友会からの案内状ダイレクトメール(27) 校友会ホームページ(3) 知人から(6)
6	母校を訪ねる会に参加する決め手となったのはどのようなことですか(複数選択可)	知人に誘われた(11) 懐かしいキャンパスを訪れなくなった(16) 恩師・友人に会いたかった(14) その他(7)
7	次回の母校を訪ねる会にも参加したいと思いましたが	ぜひ参加したい(18) 都合が合えば参加したい(13) 無回答(1)
8	どのような行事があれば母校を訪ねる会に参加したいと思えますか(複数選択可)	広く一般を対象とした講演会(10) 研究者等による専門的な内容の講演会(7) ステージでの公演(クラシックコンサートなど)(7) 学科単位の懇親会(19) 在学生による発表会(6) 在学生・同窓生との意見交換会(12) キャンパスツアー(11) 模擬店(4) その他(2)
9	今回の母校を訪ねる会にはご満足いただけましたか	とても満足(17) 満足(15)
10	工学部校友会へのご意見・母校を訪ねる会の印象・感想などをお聞かせください	土曜日開催にして月曜日の勤務に支障なく帰宅できる配慮をお願いします。金曜日を計画的に有休取得することが可能な人達は多いと思われ、土曜開催の前日若しくは当日入りも11:30受付終了であれば、遠方からも可能となり参加可能な人達が増えると思われ。懇親会ではモダンJazz研究会の生演奏でオシャレなBGMを演奏してもらっても良い気がします。(一部抜粋)
11	キャンパス散歩ツアーに参加された方:ご満足いただけましたか	とても満足(6) 満足(3)
12	キャンパス散歩ツアーに参加された方:印象に残った見学箇所は(複数選択可)	校史資料室(8) 70号館展望フロア(6) ロハス工学センター(5) 二酸化炭素回収・貯留(2) 自己治療・自己補修コンクリート(2) 桃種炭化電極、リチウムイオン蓄電器長寿命化(3)

支部活動報告

最寄りの支部へご参加下さい!!

北陸支部

新潟県新潟市秋葉区川口578-26
（株）八重電業社内 ☎0250-22-3131



● 支部長
小川 邦之
(電気 30 回卒)

● 役員

- 顧問 鈴木 隆 (建築14)
- 顧問 笠井 隆 (建築17)
- 顧問 岩名 涼 (土木22)
- 常勤顧問 山本 久 (土木31)
- 支部長 小川 邦之 (電気30)
- 副支部長 国原 重昭 (建築30)
- 事務局長 森山 良 (土木30)
- 事務局次長 本間 豊 (土木36)
- 幹事 小池 国義 (建築23)
- 幹事 田邊 篤 (電気20)
- 幹事 頭川 弘 (土木31)
- 会計 小林 一成 (建築33)
- 事務局 山口 友巳 (土木38)
- 事務局 山川 研 (建築61) ※2024年度より新加入
- 事務局 長沼 宏武 (土木62) ※2024年度より新加入

このたびの令和6年能登半島地震においては、新潟県でも新潟市西区、上越市を中心にインフラや建物の全半壊が多数発生しました。被災された北陸地方の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

山崎副支部長が病気で亡くなりました。校友会本部からの電報、ご香典ありがとうございました。2024年度新副支部長に国原重昭幹事（建築30）を推薦（役員会にて承認）

● 今年度の活動結果

- 4/22 令和5年度「工学部校友会通常総会」の出席（小川支部長）
- 5/18 新潟桜門会役員会（イタリア軒） 田邊出席
- 6/9 第1回役員会にて、総会・懇親会の開催及びゴルフコンペの再開を申し合わせ
又会費は昨年度に引き続き一口3000円とした
- 6/10 新潟桜門会総会（イタリア軒） 岩名、山本、小川、田邊出席
- 7/22 工学部校友会北陸支部 第21回定時総会・懇親会の開催（新潟東映ホテル）
懇親会参加者23名
日本大学工学部校友会 城座新会長出席
総会再開後2年目を迎えたが、まだまだコロナ禍前の参加者数には届かず

- 9/30 校友会北陸支部 懇親ゴルフコンペ開催（新津カントリークラブ） 10名参加
優勝 小野 学（土木37回卒）
- 10/30 令和5年度「第40回母校を訪ねる会」の出席（頭川幹事）
⇒卒業40周年記念を祝い、同期6名にて前日に周辺観光、当日北桜祭に参加
- 11/16 新潟桜門会拡大役員会（イタリア軒） 田邊出席
- 12/16 第2回役員会（忘年会）開催

● 次年度抱負（若手校友参加へのアプローチ）

今年度に引き続き、以下の各種会合・イベントを開催・出席の予定

1. 校友会本部等の交流
 - ①定時総会（懇親会）
 - ②工学部校友会通常総会
 - ③母校を訪ねる会
 - ④桜門会新潟県支部等との各種会合
2. 北陸支部の会合・懇親会等
 - ①役員会（定時総会打ち合わせ、会計報告）及び懇親会
 - ②懇親ゴルフコンペの開催
3. 若手校友参加へのアプローチについて
※2024年度新役員名簿添付（総会にて最終承認）
第2回の役員会にて、建築61回卒、土木62回卒の新役員が紹介された
現在の役員は50代1名、その他は全て60代以上と高齢なため、30代の新役員を中心に代替わりを積極的に進めていきたい。40代の新役員の加入も目指していく。
若手役員の増加により、着眼点の違う新たな活動にもつなげていきたい。
4. 定時総会（懇親会）参加者の増加に向けて
昨年度21名、今年度23名と伸び悩んでいるので、上記のように若手層による声掛けにも注力して目標30名以上を目指す。



九州支部

福岡県福岡市博多区板付4-6-33
（株）北洋建設内 ☎092-589-0151（脇山）



● 支部長
上田 勝
(土木 28 回卒)

● 役員

- 支部長 上田 勝 (土木28)
- 副支部長 上村公仁隆 (建築28)
- 事務局長 脇山 亨治 (建築29)
- 会計 後藤 久幸 (機械32)

● 今年度の活動結果

やっと普通が戻ってきた日常。5月になるまでは一応控えめな動きでしたが、5月からは忘れかけていた慣れない日常が戻ってきました。九州支部もそのような中、11月2日に城座会長においで頂き支部総

会を開催しました。やはり大人数で集まることはとても楽しく、え？もう終わりの時間？という感じでした。ということは来年も楽しみということで、毎月第3木曜日のアカシヤ会もしっかりとやっていこうと思っています。

● 次年度抱負（若手校友参加へのアプローチ）

九州支部の常連メンバーも少しずつ入れ替わり、若い方も僅かながら増えてきています。ただ、以前に比べ九州から郡山へ行く者が減ってきています。そこで、総会の案内状に欠席の返事を出してくれている若い校友に今後、何らかのアプローチが出来ればと考えています。



関東支部

神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1-4-822
☎045-546-2647



● 支部長
小林 啓一
(土木 20 回卒)

関東支部

支部長
小林 啓一
(土木 20)
事務局長
松尾 清志
(土木 29)

東京都 校友会	会 長 山本 健史 (建築 37) 事務局長 松崎 信一 (建築 29)
千葉県 校友会	会 長 藍郷黎治郎 (土木 14) 事務局長 松尾 清志 (土木 29)
神奈川県 校友会	会 長 本田 貢 (土木 21) 事務局長 早川 辰也 (土木 29)
栃木県 校友会	会 長 星野 光利 (土木 33) 事務局長 篠崎 淳 (土木 36)
群馬県 校友会	連絡責任者 福井 清 (土木 14)
埼玉県 校友会	会 長 永田正一郎 (土木 21) 事務局長 村井 健一 (土木 29)
茨城県 校友会	連絡責任者 穴戸 薫 (土木 13)
山梨県 校友会	連絡責任者 正木 徳栄 (土木 47)
長野県 校友会	会 長 田中 敏雄 (土木 18) 事務局長 原 健二 (土木 22)

関東支部の組織は、関東支部の下に1都8県（東京都、千葉県、神奈川県、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、山梨県、長野県）の校友会で構成されております。

●今年度の活動結果

コロナ感染症も収まってきたので、今年度は7月に関東支部役員会を開催し、役員改選を行い役員の若返りを図るとともに、1都8県校友会との連絡体制の見直しおよび連携強化を行いました。また、5月埼玉県校友会総会、9月東京都校友会総会、11月栃木県校友会総会を開催し、校友間の懇親を図りました。

4年振りの箱根駅伝応援。神奈川県工学部校友会は、箱根駅伝応援発足当初より2区、9区高島町交差点での応援を担当しております。2024年1月2、3日、高島町交差点で応援旗を掲げ応援を行いました。日大が箱根駅伝に参加するときには、横浜の高島町交差点で応援していますので、校友皆様の参加をお待ちしております。

●次年度抱負（若手校友参加へのアプローチ）

関東支部は毎年6月に関東支部総会を開催しております。また、都県校友会は定期的に役員会、総会を開催しております。次年度は、神奈川県、埼玉県校友会他で総会を計画しておりますので、校友の絆を深めるため、校友皆様の参加をお願いいたします。



四国支部

香川県さぬき市志度1178-4
☎087-894-1040



● 支部長
六車 秀世
(土木 16 回卒)

●役員

支部長 六車 秀世(土木16)
※香川支会 支部長兼任
愛媛支会 久保 陽生(土木34)
徳島支会 藤原 賢治(建築36)
高知支会 東條 傑(機械25)
事務局長 松岡 慎哉(建築37)

●今年度の活動結果

- 4/6 香川支会：毎月開催している一木会の会場（はんぶん）にて開催 / 参加者12名
- 8/26 四国支部総会：高松市内（酔灯屋）にて開催、来賓といたしまして工学部校友会 城座会長にご参加いただきました。 / 参加者20名
- 11/11 愛媛支会：（諸事情により来年に延期）

●次年度への抱負

- 四国支部総会 8月下旬～9月上旬頃
- 香川支会 花見会 3月下旬～4月上旬頃
- 愛媛支会 鵜飼見学会
6月1日～9月20日
- 徳島支会 11月初旬頃

●地域でのトピック

徳島県海陽町と高知県東洋町を結ぶ海岸線を、世界で初めて本格営業運行している DMV（デュアル・モード・ビークル）が2023年12月25日で運航2周年になりました。

支部としても本年度1泊研修を開催し、乗車し、地域の在り方を考える機会を計画しております。



北海道支部

北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9
（株）横関工業内 ☎011-831-6851



●支部長

横関 一伸 (建築 25 回卒)

●今年度の活動結果

コロナ感染症の影響により北海道支部の活動は本学部を洪水が襲った後の10月18日(金)に第46回日本大学工学部校友会北海

道支部総会及び懇親会を最後に活動を中止していました。

今年度本部での校友会総会に吉田純治事務局長（建26）とともに参加させて頂き今年度からの活動の再開を考えていましたが、昨年8月に前北海道支部長の岡本繁美氏（土木16）が急逝され、また今年度は、コロナ感染症、インフルエンザなどが、北海道でまん延し、学校閉鎖や、学級閉鎖が行われている現状を踏まえて、未だ総会懇親会は早いとのことで、郵送にての安否確認を行い次年度に繋げたいと思います。

東海支部

愛知県名古屋市中区栄4-6-25
川北電気工業(株)内 ☎052-251-7111(乾)



●支部長

近藤 直幸 (土木 28 回卒)

●今年度の活動結果

副支部長 早川 幸男 (土木 21 回卒)

校友会の皆様におかれましては、益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、昭和 48 年土木工学科卒で、卒業と同時にある準大手建設会社に入社し令和 6 年 1 月末日を以って退職の予定です。名古屋支店を最初に、九州、北陸、東京本社、大阪、札幌と主に旧日本道路公団のトンネル工事を主として勤務してきました。トンネル現場に限らず土木構造物は、現地で直接ものを造るため地元とのコミュニケーションが大事ですが、いろんな現場にて、工学部同窓、先輩、後輩のお力添えをいただき、トンネル屋人生を全

うする事出来ました。この誌面をお借りして御礼申し上げます。

さて、東海支部としては、7月の通常総会は新型コロナの件もあり中止としました。ただし忘年会は11月に名古屋嘉門栄本店にて15名にて行い久しぶりのため話に花が咲きました。また、10月末には、第40回母校を訪ねる会に私を含め3名出席し、50年前にタイムスリップした思いがしました。

こんなに楽しい行事なら60年目も実施していただきたいとの意見も多数ありました。

また、次年度の活動は通常総会、ゴルフ大会、忘年会、新年会等を行う予定です。そのために、会員の参加が課題となりますが、名古屋地区の新入社員の勧誘やそれ以外の人の発掘等、会員の皆様と協力し頑張っていくつもりです。私も退職後は、校友会を盛り立てるため、微力ながらお役に立ちたいと思う次第でございます。

東東海支部

静岡県焼津市本中根485-5
☎080-1626-6412(永田)



●支部長

酒井 浩行 (土木 36 回卒)

●今年度の活動報告

●インターンシップ・企業説明会 (8月)

参加学生40名、企業・官公庁(県市)26名、校友会役員(支部)21名
計87名

●高校生対象進学説明会『工学部IN静岡』(6月)

島田工業高校で開催

OB校友高校教員・校友企業官公庁より15名、生徒保護者63名参加

●次年度への抱負

●インターンシップ、企業説明会の開催

8月に県内企業、県庁、市役所校友の参加を得て、学生に対して実施する予定

●常任幹事会

年間3~4回、幹事(25名)の出席を得て、情報交換、行事立案を実施予定

教員部会 (アカシア教育研究会)

静岡県焼津市本中根485-5
☎080-1626-6412(永田)



●支部長

横尾 聡
(建築 28 回卒)

●支部構成

- ・北海道支部
- ・福島支部
- ・青森支部
- ・静岡支部
- ・山形支部
- ・茨城支部
- ・新潟支部 (長野県を含む)

●役員名簿

支部長	横尾 聡 (建築28)
相談役	関根 敬次 (建築16)
事務局長	永田 進 (建築22)
事務局長代行	阿部 英敏 (工化33)
常任幹事	
久保田幸正 (建築19)	渡邊 秀雄 (機械20)
大澤 俊幸 (土木27)	豊島 隆幸 (電気27)
田村 浩啓 (土木29)	伊藤 満 (建築30)
宮崎 拓也 (土木49)	田畑 剛 (建築52)
小林 邦之 (電電52)	大石 祐太 (建築61)
紅林 達哉 (建築62)	千葉 健寛 (建築65)
安彦 宗哲 (機械65)	中山 智博 (土木66)
吉村 恵太 (電電66)	山本 陽介 (電電67)

●今年度の活動結果

- ・各支部会を1~3月に開催
(コロナ下であったので1月~3月に集中)

●次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)

- ・オープンキャンパスへの参加
- ・学術研究報告会への積極的な参加

●地域でのトピック

令和5年度学術研究報告会へ参加し、水戸工業高校の大内凌輔先生、白河実業高校の大野隼弥先生、掛川工業高校の高田一伸先生などをはじめ、若手教員が中心に積極的に学校での取り組みを報告していました。その後の懇親会では、日本大学工学部事務局長の江黒俊弘様より家族大学として活気あふれる工学部を校友教員とともに築き、盛り上げていきたいとの言葉をいただきました。

谷川正己先生を偲ぶ



山上建築設計 代表
一級建築士 (公社)日本建築家協会 シニア会員
山上 薫 (建築 13 回卒)

谷川先生は長年、アメリカの著名な建築家フランク・ロイド・ライトについての研究を続けられ、それまで知られていなかった新しい事実を次々と掘り起こし、日本建築学会での発表を続けてこられた。正に日本におけるライト研究の第一人者であった。1998年には「Frank Lloyd Wright 研究に関する一連の業績」で日本建築学会賞を受賞された。また2014年には、日本建築学会名誉会員に推挙された。

同年10月3日「谷川正己先生の日本建築学会名誉会員ご推挙を祝う会」が、池袋の自由学園明日館（ライト設計）で開催された。

過去の名誉会員の方々の名簿を眺めてみると、著名な学者や建築家の名前が多くみられ、ここに名前を連ねることは文字通り大変名誉なことであることがわかる。

私は谷川先生の教え子の一人で、工学部（当時は第二工学部）建築学科を1965年（昭和40年）に卒業した。私の学生時代で、特に印象に残っていることを、二つばかり紹介したい。

谷川先生が郡山に赴任してこられたのは1961年（昭和36年）の4月だが、私もちょうど同じ時に入学した。その数か月後、先生はライトがその活動の総決算として最晩年に書いた「A TESTAMENT」（1957）という本を、奥様と共同で翻訳して「ライトの遺言」という書名で彰国社から出版された。1000部限定の箱入り豪華本で、当時の私達学生にとっては大変高価だったが、何とかお金を工面して手に入れた。今も大切に私の本棚に並んでいる。その後この本は普及版が出版された。

この頃の先生は30歳を過ぎたばかりで、若く意欲的で、情熱をもって学生に接しておられた。その一例が「建築家の教養」という副読本である。

これから建築の世界で生きて行く者が読んでおくべき本を紹介したもので、吉田兼好の「徒然草」からブルーノ・タウトの「日本美の再発見」、ライトの数冊の本等合計25冊の本が、その一部の抜粋と先生のコメントで紹介されており、入学したばかりの私達学生にとっては道案内になる有難い本であった。

私は卒論の1年間を含め、学生時代の4年間、授業以外にもちょこちょこ研究室に出入りさせていただき、幅広く色々なことを教えていただいた。

この4年間に得たものが、その後、私の人生の基本の一部となったように思う。

卒業後、私は郷里の名古屋に帰り、建築事務所で修業

後、独立した。

先生は毎年1回ぐらいいは出張で来名されたが、その都度OB数人が集まり、食事をしながら旧交を温めたものである。

社会人となってからで、記憶に残っていることがある。

私の手元に「the WRIGHTIANA ザ・ライティアナ」という題のB6版の本が5冊（I～V）ある。谷川先生がライトを研究してゆく過程で発見した新資料や出来事が手書きで綴られている。1985年4月8日に創刊して、以来刊行し続けたB4版「日刊壁新聞」の10年分をまとめた縮刷版である。

この縮刷版の序には次のように記されている。

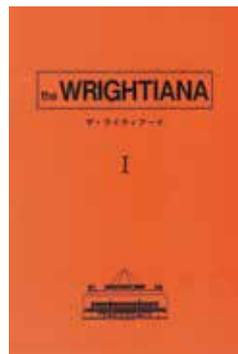
「本紙は、原則的にB4の用紙に手書きの壁新聞一研究室前の掲示板に貼り出す、発行部数1部の新聞一なのだが、大学の休暇の多さに扶けられて、年間135回刊行という頻度が確定、定着した。昨今のコピー技術の普及に支えられて、これをB5版に縮小して、同好の諸子に30～50部ばかりお送りするというのも、併せて実践してきた。一中略一B5版の縮小コピーの裏白が、ひどく気になりはじめた。出来得る限りコンパクトなものに纏めておかなければ、という心配を、この縮小版で解消しようと心掛けた。B6版両面刷りの本紙縮刷版はイラストレーションのことは無視し、私の手書きの原稿が判読できる限界まで縮小してある。」

決められたB4の紙面に、ライトと自分をつなぐあらゆる情報を日刊で、コツコツと手書きしていくという作業は、地味だが驚嘆に値するものである。

このような前例を私は知らない。正に偉業と言ってもいいのではないだろうか。

このように私は折に触れお会いする機会もあり、長いお付き合いを続けさせていただいた。

2020年2月に御長男の一己さんから寒中見舞いのハガキが届き、先生が2019年8月に89才で亡くなられたことを知った。とうとう来るべきものが来たのかと思いつつ、寂しさが募った。1年前に旅立たれた奥様共々安らかにお眠りくださるよう祈念するものである。



体育会少林寺拳法部第九代同期会

少林寺拳法部OB 近藤 公治 (機械26回卒)

令和5年11月に静岡県で昭和53年3月卒業の少林寺拳法部第九代の同期会を行いました。北は青森、南は熊本までの同期19名中10名が45年振りに集まりましたので投稿いたします。

現在少林寺拳法部は存在しませんが、当時は100名を超える大所帯での活動でした。上下関係が厳しく、激しい練習でしたが、顧みれば貴重な青春の思い出です。その様な思い出を共有する仲間が集まり11日から二泊三日の旅を行いました。「久しぶり！ 元気？」と言うよりも、昨日からの延長のような会話と笑いに溢れ、様々な思い出が甦った時間となりました。当時のこと、現在のことなど話題は尽きません。

初日は戸田峠を越えて西伊豆を南下し堂ヶ島へ。2日目は下田、白浜、天城峠から朝霧高原で富士山の雄大さを体感。最終日は久能山東照宮、三保の松原、丸子宿等を観光。戸田の高足ガニ、伊豆の魚介づくしの特別料理、静岡おでん他盛りだくさんの名物料理で舌鼓を打ち、各自が持ち寄った銘酒も併せ、アルコールも品良く嗜みました。また、体調を気遣ってか或いは年齢のせいか就寝も起床もかなり早くなり学生時代とは打って変わって健康的な旅行となったのは予想外でした。

卒業後は大学で得た専門知識を活かした者、他分野へ進んだ者等、皆それぞれの場所で活躍してきたようです。久々の再会で郡山の学生生活が実りある有意義な4年間であっ

たと改めて感じました。

今回は同期との再会でしたが、お世話になった先輩方、一緒に汗を流した後輩の皆さんのことも話題に出ました。如何お過ごしでしょうか？機会があれば皆様方とお会いするのも楽しいかもしれません。

母校に関わるHPを拝見しますと学術もスポーツも現役学生が大きな成果を出しているようにお見受けします。母校の益々の発展を応援したいと思います。

最後に、今回の同期会幹事を快く引き受けてくれた池富知宏君(建26回)に感謝申し上げます。ありがとうございました。



※写真は戸田峠から駿河湾越しに富士山を見ようとした時の記念写真。残念ながら雲で富士山が見えず。翌日に計画を変更して富士山を見に朝霧高原へ。左から、小関君、太田君、池富君、串間君、佐々木君、島君、村上君、塚田君、松井君。次回は三浦君、吉田君、岡野君、若尾君、渡辺君、馬淵君、長井君、斎藤君、曾根田君の全員でお会いしましょう！
撮影：近藤

学生の活躍



体育会事務局長としての一年

体育会事務局長 土木工学科 4年
本田 光希

私は一年間、体育会事務局長として体育会の活動を行ってきました。活動内容としては開講式の校歌指導、助成金の運営補助や課外活動支援金の取りまとめ、歳末助け合い運動を行ってきました。体育会は、新型コロナウイルスや阿武隈川氾濫の影響で活動がしばらく休止していたため、再度新たに組織を作り上げる必要がありました。初めての活動は開講式の新入生歓迎のパートでの校歌指導でした。体育会の活動を含めた校歌指導を行いました。初めは何をしたらよいか戸惑いましたが、OB・OGや学生課から助言を受けながら、周りの仲間と協調して取り組みました。その中で、計画を立てて活動する事の重要性に気づきました。また、計画を立てるだけではなく想定外の事も含めて計画を考えることが重要であると感じました。開講式での校歌指導は、新入生、新入生の父母を含め1,000名以上の方がおられ、私の人生ではこのような経験は初めてでした。

この経験は今後社会に出てから、プレゼンテーションや話し合いなどの場で自分の自信に繋がると感じております。

年末には歳末助け合い運動を行いました。学内では4箇所に募金箱を設置すると、事務局まわりも行いました。学外ではイオンタウン郡山で街頭募金を行いました。街頭募金は活動の許可が必要であり、また体育会所属団体の各部活動から人員の協力をお願いして実施することができました。街頭募金を通して、募金だけではなく郡山市民の方々と交流ができ感謝の気持ちでいっぱいです。

体育会は学生主体で活動していますが、OB・OGや学生課、また地域の方々に支えていただき活動ができていたのだと実感しました。この一年間で苦労や困難にぶつかったこともありましたが、楽しい思い出や多くの経験をする事ができました。来年度からは体育会会員が7名から16名になります。私たちの代でできなかった体育祭や新たな活動を行い、体育会だけではなく日本大学工学部の発展に寄与してほしいと思っています。



歳末助け合い運動

校友会について～日本大学ならではの全国・海外ネットワーク～

■日本大学工学部校友会

全国に8支部(本誌P12～14)があり、母校・学生・校友のつながりを応援しています。
北海道支部/関東支部/北陸支部/東海支部/東東海支部/四国支部/九州支部/教員部会



■日本大学校友会

全国都道府県ごとに組織された都道府県支部、学部ごとに組織された学部別部会、職種ごとに組織された職域別部会、海外に海外特別支部、またその他に、正会員15名以上で組織されている校門会が多数あり、それぞれが活発に活動しています。



- ・都道府県支部 65 支部
- ・学部別部会 (17 部会)
- ・職域別部会 (5 部会)
- ・校門会
- ・海外特別支部 (10 支部)
- ※本部校友会ホームページより

新役員名簿 (任期：令和5年4月22日～令和8年通常総会開催日)

役職	氏名	卒科・回	役職	氏名	卒科・回	役職	氏名	卒科・回	役職	氏名	卒科・回
会長	城座 隆夫	機21	常任幹事	古河 幸雄	土23	常任幹事	山本 健史	建37	幹事	村井 健一	土29
副会長	高橋 健二	土24		五島 邦夫	機23		相談役	大山 勝徳		情5	初野 直樹
	蔭山 寿一	建28		縫 裕訓	機23	中野 伍朗		化16		佐久間 啓	機40
	田村 賢一	機30		佐藤 祐一	土26		高橋 晃一	土26		児玉 大輔	化41
	柳沼由美子	化30		田口 正英	建26	小田 真司		土34		真壁 知史	情1
	幹事長	永田 直史		機29	西家 千尋		建28	会計監査		宗形 彰久	土36
副幹事長	小野信太郎	土29		松崎 信一	建29	山根 庸夫	電37			齋藤 義高	土50
常任幹事	田中 敏夫	建19		千代 貞雄	化30		幹事	永田 進		建22	菅家 和洋
	柳 啓	建19		阿部 充宏	土31	畠 良一		土26		小松 和幸	建25
	土岐 悦雄	建20		馬場 浩身	電35		遠藤 正泰	土28		杉崎 一馬	土26
	久野 清	建21	松本 力	土36	小田嶋大輔	土29					

校友会 NEWS

インクジェットプリンター貸与式～北桜祭実行委員会へ～

令和5年8月3日、校友会事務局にて、北桜祭実行委員会へのインクジェットプリンター(新品A3サイズ対応)貸与式が実施されました。

永田幹事長の進行により、城座会長から北桜祭実行委員会菅野委員長(電電3年)へ、「大いに活用してください」と目録が渡されました。城座会長は、ご自身も北桜祭実行委員だった当時の思い出を感慨深げに話され、実行委員会の学生の皆さんも聞きこんでいました。それを受け、菅野委員長が、「今まで私物のプリンターで対応していたので、ありがたいです」とお礼の言葉を述べました。実行委員会顧問の齋藤俊克先生(建築学科)からも、「プリンターの有効活用で業務の効率化が図れます」との御礼の言葉がありました。

当日、大学から学生課の佐久間真一課長補佐、濱田大輝氏、実行委員会から白石巧生副委員長兼企画局長(生命3年)、丸山幸輝商務部門長兼設備副局長(土木2年)も同席されました。



後列：学生課濱田大輝氏、佐久間真一課長補佐、城座隆夫会長、菅野洸希実行委員長(電電3年)、永田直史幹事長
前列：実行委員会顧問齋藤俊克先生、白石巧生副委員長兼企画局長(生命3年)、丸山幸輝商務部門長兼設備副局長(土木2年)

■寄付者ご芳名

以下の団体様より寄付金を賜りました。心より御礼申し上げます。

建築学科 28 回卒同期会様

ロハス工学に関する近況報告

～ロハス工学センター棟・鳥獣被害対策ネットワーク
天草でのインターンシップ活動～



日本大学工学部
工学研究所長兼ロハス工学センター長
土木工学科 教授 岩城 一郎

はじめに

校友の皆様、本年もよろしくお願いたします。昨年の本稿では前段にロハスの家群跡地再生プロジェクトの近況についてご報告し、後段では2012年以降、ロハス工学の一環として著者の研究室で進めてきた健全で持続可能なインフラの実現を目指した取り組みについてご紹介しました。今年は、はじめにロハスの家群跡地再生プロジェクトの一環として進められている（仮称）ロハス工学センター棟の近況報告を行い、次いで、日本大学工学部（以下、本学部）が主体となって進めている「鳥獣被害対策ネットワーク」の取り組み、さらには昨年からは開始した熊本県天草市でのロハス工学を実践するインターンシップの概要についてご紹介いたします。

ロハス工学センター棟の近況報告

ロハス工学センター棟がいよいよその姿を現し、2023年6月に内覧会、8月のオープンキャンパスでは高校生や父兄の方々にお披露目し、10月の北桜祭でも一般公開しました。本棟は学生や教職員の研究・教育・会議などや憩いの場になるような多目的スペースを目指しており、学生や卒業生にも施設の構築に関わってもらっています。現在、内装工事や家具等の設置を進めるとともに、この施設にロハスの技術を実装する作業にも着手しており、2024年度に本格運用を開始します。2024年度早々に本棟の名称を含む正式なお披露目の場を計画しており、以降、校友の皆様方にも是非ご活用いただきたいと考えています。今後この施設を「ロハス工学」ひいては「ロハス学」の拠点とし、キャンパス全体の「ロハス化」を目指す「ロハスのキャンパス計画」の実践へとつなげていきたいと考えています。本活動の概要は「工



ロハス工学センター棟

学部広報」のロハス工学特集 (<https://www.ce.nihon-u.ac.jp/nue/wp-content/uploads/2023/12/koho269.pdf>) にも掲載されていますので是非ご覧ください。

鳥獣被害対策ネットワークの紹介

近年、我が国では連日のように鳥獣被害に関する報道がなされ、特に東日本大震災以降、避難を余儀なくされた浜通り地方で深刻化している現状にあります。そこで、2020年度、著者が発起人となり、福島県浜通りにおける鳥獣被害対策に関する情報共有や意見交換を行うために「大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業」（復興庁）の参加大学に声がけし、「鳥獣被害対策ネットワーク」を立ち上げました。その動機として、この問題は一専門分野あるいは一大学で解決できるものではなく、様々な分野の専門家が知恵を寄せ合い、大学間で連携することにより、課題解決の糸口が早期に見出せるとの考えにあります。その結果、この発案に賛同いただいた、慶応大学、東京大学、東京農業大学、東京農工大学、東北大学、長崎大学、日本大学、福島大学（50音順）の8大学で活動がスタートしました。現在は、2021年度に新たに立ち上げられた「大学等の復興知」を活用した人材育成基盤構築事業（（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構）の下、東京農業大学、東北大学、長崎大学、日本大学、福島大学（50音順）の5大学に加え、環境省、福島県、外部組織（地域活性化企業組合、株式会社スカイシーカー、株式会社アルサ等）という産学官の連携体制により活動を継続しています。具体的には、年に数回、オンラインで鳥獣被害対策に関する議論を行うとともに、毎年、研究成果を披露する場として「鳥獣被害対策シンポジウム」を開催してきました。

第1回シンポジウムは2020年12月15日、富岡町文化交流センター学びの森大ホールにおいて、対面とオンラインを併用したハイブリッド方式により開催されました。第2回は当初浪江町での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い現地での開催を断念し、全面オンライン形式で開催しました。第3回は新型コロナウイルス感染症の脅威がやや沈静化したことを受けて、前年度実施予定であった浪江町の地域スポーツセンターにて開催しました。そして2023年12月19日に南相馬市浮舟文化会館ホールにおいて第4回シンポジウムが開催されました。今回は、本ネットワークのメンバーでもある福島大学農学群食農学類の望月翔太准教授に基調講演をお願いし、福島県内における鳥獣被害の現状と将来への展望についてお話しいただきました。続



鳥獣被害対策シンポジウムのチラシ

いて第一部としてネットワークメンバーである大学側から成果報告を行いました。その中で本学部からは情報工学科中村和樹准教授により、東北大学小倉振一郎教授との連名で、「葛尾村におけるイノシシ被害対策：カラジナの忌避効果とドローンによるセンシング」と題した発表をいただきました。第二部では、本ネットワークの連携先である、環境省福島地方環境事務所、福島県生活環境部自然保護課、さらには、地域活性化企業組合や株式会社スカイシーカーにも話題提供をいただきました。本活動は「福島イノベーション・コースト構想」においても重要な位置づけにあると評価されており、2023年12月22日に福島県楡葉町で開催された令和5年度「復興知」事業活動報告会において、採択大学等の連携した取り組みの好例として発表させていただく機会を得ました。

日本大学工学部は必ずしも鳥獣被害対策に関する専門家を有しているわけではありませんが、福島県内にある大学として、地域に不可欠な課題であれば、先陣を切って解決に臨む必要があり、今回の取り組みにおいても本学部のプレゼンスを示せたと考えています。

熊本県天草市でのロハス・インターンシップの紹介

2023年8月7日から13日にかけて、熊本県天草市の山間にある自然豊かな手野地区にて、土木工学専攻博士前期課程1年の田中暁さんと平井伸和さん、建築学専攻博士前期課程1年の榎本祐希さんがインターンシップを体験しました。本プロジェクトは、日本大学工学部ロハス工学センターと日本大学客員教授の後藤千恵氏（元NHK解説委員）が理事を務める一般社団法人「天草1000年の人と土の営み」（通称あません）との連携企画であり、3人は1週間にわたって地元の方と協働し親睦を深めながら、これまで学んできた「ロハス工学」を実践しました。具体的には、過疎・高齢化が進む地域で、各自が大学院で研究しているテーマを生かし、①ロハスの道づくりプロジェクト（田中さん担当）、②ロハスの水場プロジェクト（平井さん担当）、③古民家再生プロジェクト（榎本さん担当）という3つのプロジェクトに挑むというものです。このうち①では、草木を除去し土をならし、踏み固めて道をつくる昔ながらの手法で道づくりを行うもので、地元の高校生たちと協力し、急な斜面を登りやすくするトレイルコースを完成させました。②では、ロハスの花壇の研究で培った知識を活かし、高校生のメンバーにレクチャー。空き家にあった樽と炭焼き窯で調達した木炭を使ったロハスの浄化装置を作製しました。③では地元住民の方々に聞き取り調



ロハスの道づくりプロジェクト



ロハスの水場プロジェクト

査を行い、研究室の教授からリモートでアドバイスをいただきながら、空き家の活用方法や集落を活性化させるためのアイデアを考えました。最終日には地元の方々に集ってもらい、これらの取り組みに関する報告会を開催。その後懇親の場も用意され、天草の方々と自由闊達な意見交換がなされました。今後この活動を足掛かりに、日本大学工学部とあませんとの間で、健全で持続可能な仕組みを構築し、毎年度本学部の学生を天草に派遣し、新たなロハスの実践の場として活用していくつもりです。本活動の概要は前述の「工学部広報」に掲載されるとともに、その詳細は学部のホームページ (<https://www.ce.nihon-u.ac.jp/newinfo/240105amakusa/>) にて閲覧できます。現在、他にも「是非うちの地区でもロハス工学を生かした里山づくりを展開したい」との申し出を受けており、今後、ロハス工学の実践の場はキャンパスを飛び出し、各地域に展開されることとなります。



古民家再生プロジェクト

おわりに

このようにロハス工学に関わるプロジェクトは、一步ずつ、着実に成果を重ねてきています。こうした地に足のついた活動は、激動する国内外の情勢に振り回されることのないものであり、逆にこのような時代だからこそ求められるものと自負しています。これからも変わらず「学生のため、地域のため」を合言葉に、ロハス工学ひいてはロハス学の発展に尽力してまいり所存ですので、引き続き、校友の皆様方からのご支援、ご鞭撻をお願いいたします。



報告会の様子



東日本大震災を経験して

福島県磐梯町 町長

佐藤 淳一（工化32回卒）

福島県磐梯町に在住の佐藤淳一です。私が母校「日本大学工学部」を卒業して、約40年の月日が過ぎました。在学中は学業とともに、ボート同好会（のちに部に昇格）に入部して多くの仲間と充実した学生生活が思い浮かんできます。

わたしが行政に入るきっかけになったのは、東日本大震災（以下、震災）と福島第一原子力発電所事故（以下、原発事故）でした。

卒業後、磐梯町内で構想があったリゾート開発会社に入社、しかしながら会社は多額の債務により2003年倒産、すぐに（株）星野リゾートが運営を引き継ぐこととなります。わたしは2005年に「株式会社 星野リゾート」初の東京営業所長として東京勤務となりますが、震災発生2年前である2009年12月、「星野リゾート アルツ磐梯」総支配人として故郷に戻るようになります。

そして2011年3月11日にあの東日本大震災が起きました。

震災当日は金曜日であり、ホテルやスキー場に約1,000人程度のお客様がおりました。まずホテル支配人とともに宿泊客の安否確認や誘導を行いながら、ホテルラウンジに設置した5台のテレビに映った東北沿岸部を襲った津波の映像は、大きな恐怖とともに自然災害に対して人間ができることの限界に喪失感を覚えたことを記憶しています。

それから間もなくして原発事故が発生し、原発近くに住む多くの人々が着の身着のまま避難することになります。磐梯町公民館も避難所となり炊き出し等を行っていましたが、避難者の方々が生活をする上で十分満足のいく対応ができていない状況でした。その後、磐梯町からの要請で「星野リゾート アルツ磐梯」での避難者受け入れをさせて頂くことになり、避難者のみなさんが大変喜んでいたことを今でも思い出します。最大280人の避難者を受け入れ、2011年10月末まで避難生活をサポートさせていただきました。一方、震災後のリゾート運営については3月11日から12月中旬まで営業を休止することになり、その間の社員の休職やパートアルバイトの雇用解除など、運営責任者としての厳しい決断と実行を求められる場面が多く精神的にも辛い時期でした。そして福島県民全体が震災前の元の生活に戻るようになることがあるのだろうか。という恐怖に足がすくむ思いでありました。

震災復興半ばで風評被害が最も厳しい時期に、わたしは磐梯町より観光協会長を拝命いただきました。福島県の観光復興は一事業者ではどうにもならない状況にありましたので、町を通して福島県の観光復興に寄与できることに全

力を尽くす決意をし、また同時に行政との連携を強化して復興を加速させたいという考え方で、2015年に磐梯町議会議員へ立候補し当選。その後の議員生活4年間で行政の仕事を勉強する過程で、民間企業での経験も活かし町民のために貢献したいという気持ちが強くなります。2019年に磐梯町長戦に立候補、無投票で当選をさせていただき、2023年2期目の再任をいただきました。

以下は、1期目の町長に着任後、職員に訓示させていただいた内容を記載します。

職員のみなさんは家族です。

家族がまとまるためには、みなさんと共有する目標である「ビジョン（将来の理想像）」と、そのビジョンを達成させるための具体的な行動指針を持たなければならないと考えています。

みなさんの勤める役場は何のために存在しているのでしょうか？

皆さんからは、様々な回答が返ってくるのではないかと思います。住民サポートのためとか、国や県の制度を導入・維持していくためとか、町の環境を維持するためとか、いろいろ目的があると思います。それぞれの仕事に対してどのような想いで向き合い、取り組んでいるのでしょうか。わたしはその取り組み方の想いが重要であると考えています。そのためにみなさんが同じビジョンを共有し、同じ行動指針を持って行政業務に当たっていただく、何か課題や疑問にぶつかった時には立ち戻れる想い（考え方）が必要です。それがここで言う「ビジョン」であるとわたしは思います。

わたしのまちづくりのビジョンは「自分たちの子や孫たちが暮らし続けたい魅力あるまちをつくる」ことです。具体的には磐梯町に住み続けたい、帰ってきたい魅力のある町をつくるということです。このビジョンを実現していくための、役場の存在意義・目的（ミッション）は「**町民の幸せのための行政サービスプロ集団**」になることだと考えています。町民が幸せになるため、職員のみなさんはどのような行動をとるかですが、わかりやすく示すと「**町民は親戚であり友人である**」と考えてください。これが実現できれば役場には多くの町民が来訪し、そして笑顔が広がり、職員自体にも幸せが広がるものと確信しています。



中学生ボランティア活動 挨拶

校友レポート



ダイバーシティに富んだ ハイテク市場でキャリアを積む

マイクロソフトシリコンバレーキャンパス
川原 泉 (電電 53 回卒)

私は、1982年米国ボストン生まれ、東京育ち、2005年に日本大学工学部電気電子工学科を卒業しました。大学1年の時にアップルの初代 iPod と iMac に一目惚れし、大学卒業後は米国に留学し、サンフランシスコにある Academy of Art University にて、工業デザイン分野で修士号 (MFA, Master of Fine Arts) を修得しました。

大学院卒業後はフリーランスとして SRI (Stanford Research Institute) においてメディカル・スクールの学生向けに医療器具を始めとする様々な 3D デザインプロジェクトに従事し、2014年、カリフォルニア州クパチーノにあるアップル本社にてアソシエイトとして就職し、主に iPhone、初代 AirPods、初代 Apple Watch の開発プロジェクトに携わりました。

Steve Jobs の意志を継いだ CDO (最高デザイン責任者) であった Jonathan Ive の退任がきっかけとなり、それまでアシスタントに過ぎなかった私も自分にしかできない仕事を見極めるためアップルを退社し、2018年、サンフランシスコのフランス・イタリア系の工業・建築デザイン企業、Gemmiti Model Art に 3D CAD の職を得ました。翌年、英国ロンドンで半年間、プロトタイプ製作とモデルメイキングの修行を行いました。

米国への帰国後、2020年にマイクロソフトにヘッドハントされ、シリコンバレーに開設されたキャンパスにて、シニア・プロトタイピング・エンジニアとして最新の 3D プリンタを駆使する複数の商品の試作に携わるようになり、現在に至ります。

マイクロソフトでは、視覚端末機用の AR ホロレンズが提供する AR テクノロジー (Augmented Reality: 現実拡張) の商品開発を始め、AI を駆使して量子コンピューター



マイクロソフト シリコンバレーキャンパスの正面玄関にて

(Azure Quantum Elements) の研究活動にも携わっています。そのほかにも、海外の大学や研究所との共同研究やプロトタイプ材料の再利用と生態系への影響の研究にも従事し、2023年からはソフトグッズ (生地製品) のクリエイティブ・チームも担当するようになりました。

アメリカでの工業製品の開発は、多種多様な人種のユーザーのことを考えながら行う必要があります。一方で、これらの製品開発も様々な国籍のエンジニア、デザイナー、マーケターによる共同作業なので、英語を共通言語に (たまにスペイン語も使いながら)、コミュニケーションをとり、切磋琢磨しながらキャリアを伸ばしています。そのような環境に自らを置くことで、私自身も育てられていることを実感しています。

大学時代の電気電子工学の学業を始め、今までの経験をすべて活かせる現職にあることに誇りを持って仕事をしています。これまでに得た実践的スキルを後進に少しでも伝えたく、2024年からは、プロトタイプの授業を土曜に 1 コマだけサンフランシスコの母校の大学で受け持つ予定です。

北カリフォルニアは、日本のような明確な四季の違いはありませんが、一年を通じてとても過ごしやすい気候です。また、自然も豊かで、自宅から車で約 3 時間内陸へ行ったところには世界自然遺産にも登録されているヨセミテ国立公園や透明度が世界 3 位と言われているタホ湖があります。

2023年 11 月、アメリカの感謝祭の休暇を長めにとって、8 年ぶりに日本に一時帰国しました。滞在中、大学時代の友達との再会も果たせました。今の職場は、従業員約 2000 人中、私を含め日本人はわずか 2 人しかいないので、日大の学生の時に戻った気持ちでとても楽しく貴重な時間を過ごすことができました。



ホロレンズ 2 を使用してプログラミングをしているところ



音響・超音波研究でお世話になった小林 力教授のおすすめで、コロナ禍の前年に母のお誕生日のお祝いに世界自然遺産ヨセミテ国立公園へ行きました。

若葉マーク 頑張り記



地質調査に魅せられて

山北調査設計株式会社

宮地 雄斗 (土木 70 回卒)

6年前、日本大学工学部土木工学科に入学した私は、これからの大学生活に心を躍らせていました。しかし翌年、台風19号による阿武隈川の氾濫や、その翌年の新型コロナによるパンデミックの影響を受け、多くの時間を自宅待機の状態でした。ようやく情勢が落ち着いたかと思うと、すぐに就職活動や卒業論文など、やる事が目白押しでした。特に就活に関して危機感を覚えつつも卒業ギリギリまで悩みに悩んでいた私は、研究室で学んだことを生かし、なおかつ興味を持って仕事に取り組みそうなる就職先という観点に絞り必死に就活を行いました。悪戦苦闘の末、現在働いている山北調査設計株式会社に就職することができました。

山北調査設計株式会社は、創業50年以上の地質調査を主とする企業です。他にも赤外線サーモグラフィを用いた調査やUAVによる空撮業務など幅広い分野の業務を取り扱っています。山北調査設計に入社して初めて私は地質調査の重要性について学びました。

意外にも地質調査は身近なものであり、建物や橋梁などを建てる際には必ず行われるものになります。地表面からは見ることのできない地中の土や岩盤の状態をボーリング調査やサウンディング試験等で確認し、調査によって得た情報を数値および図面化することで、目に見えないものを見えるようにしていきます。それによって、適切な建築工法などを選定・提案する資料を作成することができるのです。建設会社の方々はその資料に基づいて建築・施工を行います。以前は地質調査というもの土を掘って調査するものというほどの認識でしたが、実際に携わることで、人々の暮らしを支える縁の下の力持ちとなる仕事をしているということを実感しました。それと同時に、人々の暮らしに直結する、非常に責任のある仕事だということを感じました。

今はまだ経験も浅く、至らぬ点が多いですが、今後も経験を積み重ねていき、より多くの仕事に携わることで、地質技術者として成長したいと思えます。そして、人々が安心して暮らせる地域づくりの力になれるよう努力していきたいと思えます。



あかしや新聞



あかしや新聞部での思い出

株式会社プロダクトワン 取締役

安藤 進輔 (機械 19 回卒)

私は昭和22年の生まれの76才です。50数年前に機械工学科の学生で、当時郡山市大町の自宅では下宿業も営んでおり、工学部の学生もいました。兄安藤立哉(建築14回)も工学部で毎月発行の「あかしや新聞部」に在籍していたことから、わたしも興味があり、同部に入部しました。

「あかしや」の名前は、大学の通りに多くあった「あかしやの木」からだと思われま。

あかしや新聞部で活動時期に印象深いのは、やはり私が2年生当時の大学使途不明金に始まった大学紛争での、工学部新聞委員会、通称「工闘委」、この工闘委による管理棟占拠です。

あかしや新聞部は取材として大学側へも、工闘委側へも自由に入出入りできましたが、工闘委が占拠した管理棟に入るには、二重、三重のバリケードを通り抜けなければなりません。最終的には管理棟占拠の工闘委と大学側が要請した警察機動隊とが衝突し、終結しました。私は正門の近くで警察側の機動隊近くにいました。

機動隊の人数がどれ程だったかは、覚えていませんが、工闘委の人数よりは、多いことは確かでした。

管理棟へ近づく機動隊に火災ビンを投げつけ(日本で初めて学生が作って使用した火災ビン)地面でポッと燃え広がったことにビックリしたこと、また、警察側が大きな望遠レンズで工闘委側を撮影していたことを覚えています。

エピソードとして、工闘委の幹部がお風呂に入りに行く時は隠密で工闘委委員が4~5人でガードして行っていました。

東京各大学の闘争委員が集合してのデモ行進を取材した際は、デモのジグザク行進で道路が揺れ動きました。

また、東京大学内の落書きにこの様な文章もありました。「止めてくれるな、おっ母さん、背中のイチョウが泣いている。」ところどころしか覚えていませんが、以上が今も心に残っているあかしや新聞部時代の大学紛争です。新聞は昭和44年まで約20年にわたり発行されました。

学生新聞の沿革

学生が主体となり昭和22年6月15日「日本大学工学新聞」の創刊号が発行された。

五来達先生が発行責任者となり、日本大学工学部専門部の学生を指導し、日本大学工学部新聞編集を立ち上げた。

毎月5日(一部金五円)で発行した。

日本大学工学新聞 昭和22年 6月15日 創刊号
~昭和24年10月15日 7号

日本大学学生新聞 昭和25年 1月 1日 8号
~昭和30年 6月15日 21号

あかしや 昭和30年 9月20日 22号
~昭和44年 1月22日 98号

この工学新聞は、名前を変えながら昭和44年1月22日付(98号)まで続き、広く学生に愛された新聞であったが、昭和43年の学園紛争後、学生委員会は解体され、学生新聞は廃止、廃刊となった。

その後は新しく工学部より広報が発行されるようになり、現在に至っている。



木村圭二氏(建3回)提供

下宿は永遠なり

サトー荘50周年記念 佐藤様ご夫妻を囲む会

山本 和彦（電気 29 回卒）

私は、昭和 52 年 4 月から工学部へ入学し、縁あって「サトー荘」で学生生活を過ごさせて頂きました。昨秋、第 2 回サトー荘歴代同窓会を開催する運びとなり、私達昭和 52 年入学組 5 人が幹事役となりました。サトー荘開業当初からの卒業生や 50 年ぶりの先輩も参加され和やかに開催することができました。前回から 7 年もの月日が過ぎておりました、コロナウィルス感染も世界的パンデミックとなり東京オリンピックも延期となり、同窓会等を開催することすらままならない時期でありました。世の中も平穏な年を迎えることができたので、いざ開催と思いきやサトー荘周辺が都市開発事業によりサトー荘解体並びに下宿業務終了の運びになったことを知り、同窓会開催が急務となっております。開催するにあたり卒業より四十有余年経過しており連絡を取ることも容易ではありませんでしたが佐藤様のサトー荘卒業生名簿を頼りに 40 数名の方に連絡させて頂きました。几帳面に記録されていたお陰です、感謝しております。

また、昨年 5 月に幹事会を開き旅館との打合せを終え準備万端となりました。これも佐藤様ご夫妻が元気で早く招待を御承諾して頂いたことに尽きません。

宴会では、佐藤様ご夫妻に感謝を含め「お祝いの花束・記念品」をお渡し致しました。これまで長きに渡り下宿業を営んで頂いた感謝とねぎらいの言葉を申し上げた次第であります。また、佐藤様ご夫妻より多大なお志と各人に記念品を頂き、皆恐縮しています。卒業生各人の近況報告とともに学生時代

の思い出を述べ、佐藤様ご夫妻にご報告いたしました。会の最後には、佐藤様ご夫妻をエンディングアーチにてご退場させて頂きました。私達サトー荘卒業生一同、サトー荘でお世話になり第二の故郷（郡山）でありお父さんお母さんとして尊敬し、いつまでもお元気にいて下さいと思うばかりです。

翌日は、サトー荘跡地（佐藤様ご夫妻とご子息様家族の新築現場）で記念撮影を終え懐かしさと寂しさを胸に抱きつつお別れを致しました。

最後に工学部校内を校友会の方にご案内して頂き、在学中とは変わりゆく校舎に時の流れを感じさせられました。休日にもかかわらずご案内を頂き誠にありがとうございました。

サトー荘の建物は、無くなってしまいましたが卒業生一同、当時のことを思い浮かべながら郷愁に更け、母校日本大学工学部とサトー荘の思い出は、一生忘れられないことでしょう。あらためて「感謝」です、ありがとう、サトー荘”万歳”!!

次回は、是非「校友会の母校を訪ねる会」にも参加して御挨拶に参りたいと考えています。

私事を少し書かせて頂きますと、学生時代から車が大好きで、今でもイベントやサーキット走行を楽しんでおり、自由な時間を有効的に満喫したいと思います。



サトー荘50周年記念 佐藤様ご夫妻を囲む会

志田下宿同窓会

榎原 俊次（機械 27 回卒）

磐梯熱海温泉『浅香荘』にて母校を訪ねる会前日の 10 月 28 日に、第 2 回 志田下宿同窓会を開催しました。

コロナの影響も残り第 1 回と比べ約半数でありましたが、夫婦参加者も含め 10 名が集まり、11 年ぶりに親交を温めました。

翌日には事務局のお取り計らいで、志田下宿同窓会メンバーも母校を訪ねる会へ招待して頂き大いに盛り上がりました。工学部校友会事務局の方々にはこの紙面をお借りして感謝申し上げます。

又、志田下宿同窓会の前日には幹事 2 人で現在空き家になっている下宿のご仏前へ香典とお菓子をお供えしました。その際には私が学生当時小学生だった下宿の娘さん（好穂ちゃん）も仙台から駆けつけてくれ、その足で下宿のおばさん、おじさんが眠るお墓へもお花をお供えしたことを報告します。

志田下宿は安積永盛駅から阿武隈川沿いに南へ徒歩 20 分程で水郡線の踏切の手前、須賀川市との市境近くにあり、大

学から徒歩 30 分と遠く離れているにも係わらず、下宿のおばさん、おじさんの面倒見がいいこともあったのか、ほとんどの学生が 4 年間を通して暮らす、ちょっと珍しい下宿だったかと思います。私がいた 4 年間で先輩、後輩とも途中で下宿を出た学生は一人もいませんでした。下宿が孤立していたためか、15 人程の下宿生は他の下宿と比べ学生同士の絆も少し強かった様に思います。

今回の同窓会および母校を訪ねる会ではたくさんのいい思い出を持ち帰ることが出来ました。日本大学工学部および志田下宿で学生生活を送れたことが本当に幸運だったと思う二日間でした。

尚、第 3 回志田下宿同窓会は数年後に現在静岡に住むメンバーが幹事で実施することになりました。メンバーの皆さま宜しくお願いします。

では、次回志田下宿同窓会で再会することを楽しみにしております。



令和6年度 通常総会通知

本会会則第11条により、日本大学工学部校友会令和6年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

1. 日 時／令和6年4月20日(土) 13時より
2. 場 所／日本大学工学部 50周年記念館 3階
3. 議 題／(1) 令和5年度会務報告および決算報告
(2) 令和6年度事業計画および予算審議
(3) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催



※但し、変更等が生じた場合はホームページに掲載または事務局にて対応致します。

第41回 母校を訪ねる会

開催日／令和6年(2024年)10月20日(日)

場 所／日本大学工学部 50周年記念館を予定

対 象／第22回卒(昭和49年3月卒) 第52回卒・情報第8回卒(平成16年3月卒)
第32回卒(昭和59年3月卒) 第62回卒・情報第18回卒(平成26年3月卒)
第42回卒(平成6年3月卒)

大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第74回北桜祭も開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報下さい。出来る限り応援致します。

※対象学年の皆様には改めてご案内状を発送(8月中旬予定)させていただきます。また、対象学年に関わらずご参加いただくことも出来ますので、ご希望の方は校友会にご連絡下さい。

住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報をお願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

写真部



大学写真部(来栖翔吾部長)の皆様より表紙・裏表紙の写真を提供していただきました。発行に際しご協力いただきましたすべての皆様に対し、広報委員会より感謝申し上げます。

校友会報 第87号

発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
URL : <https://www.nichidai-ce-koyukai.com>

発行部数 13,200部
発行日 令和6年3月1日
発行責任者 校友会会長 城座 隆夫
編集責任者 広報委員長 千代 貞雄